

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 17 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3873200780		
法人名	社会福祉法人 寿山会		
事業所名	グループホーム パラディ		
所在地	今治市波方町樋口甲120番地1 (電話) 0898-36-5255		
管理者	高橋 正子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 5 月 20 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 18 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	12.3 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	4 名	要介護 2	10 名
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86.5 歳	最低 70 歳	最高 100 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は病院も経営しており、地域住民の生活支援への思いから開設したホームである。ホームは高台にあり、後方に森林、前方に民家や市営施設、公園等が眺められる優れた環境の中にある。ホームは平屋建てで、木材を多く使用し、温かい雰囲気がある。職員は利用者の思いを大切に支援し、時には生活の知恵や料理法を利用者から教わりながら、共に仲良く暮らしている。地域との交流は日常的で、地元の方がホーム行事に子どもと共に参加したり、野菜を届けてくれたり、災害時の応援にも協力的である。同系列の病院、老人保健施設、在宅介護支援センター

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価をふまえ、運営推進会議に地域の幅広い層の参加者を依頼し、市との連携を深め、災害時には地元の協力が得られるよう働きかけ、ホームの居間に時計を増やす等の改善に熱心に取り組んでいる。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員は自己評価を行うことで日頃の支援の振り返りができると考えている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議では、ホームの状況、事業・行事計画、家族会、外部評価、新たな試み等の報告をし、それらに対する質問、意見等を出してもらっている。会議での意見や地域の情報等をホームのサービス向上に活かしている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の意見・希望は家族の来訪時、家族会、運営推進会議等で把握し、ホームの運営に反映している。苦情相談窓口は、内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは地域の自治会、老人会に参加し、利用者は地域の文化祭に作品を出品するなどしている。また、地域の方がホーム行事に子どもと共に参加したり、必要時には釘打ち等の作業を手伝ってくれたり、野菜を届けてくれるなどの交流がある。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

## V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム パラディ

(ユニット名)

虹ユニット

記入者(管理者)

氏名

高橋 正子

評価完了日

平成 20 年 5 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 現在作り上げている理念は、開設当初経営者、スタッフで考え、作ったものであり、日々理念をもとにケアしてきた。4年経って職員の入れ替わりもあったが理念に添った生活援助は職員の意識の中に定着している。  (外部評価) 経営者、管理者、職員で話し合っつくりあげた、利用者主体の分かりやすい理念である。更に、理念を具体的に行動指針として表わし、地域で暮らし続けることへの支援も明記している。理念と行動指針は居間・事務室に掲げている。	※	理念の見直しをして「したいことを探そう」を加え、よりその人らしい生活支援をしていきたい。又、地域の中でその人らしい生活が継続できるように、デイサービスをもっと利用して頂けるよう、啓発していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ユニット会・カンファレンス時・ケアプラン作成時・日常のケアの中で、常に理念を意識しており、実践し、又、より実践が向上できるように努めている。  (外部評価) 職員は理念が身近なものとして取り組めるよう、各ユニットで月目標を作り、振り返りを行っている。理念や行動指針は、介護計画の作成時や、日々のケアでの迷いがある時などに意識するよう心がけ、日々の支援に繋がっている。	※	行動指針が実施しやすいよう、月目標をつくり、ユニット会にて振り返りができるよう取り組みたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会の時や・事業所便りの中で・日常のご家族との関わりの中で、機会あるごとにお伝えしてきている。地域の方にも、サロンの方の見学や運営推進会の時などにお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 4年経って徐々にお付き合いができるようになった。近所の方が野菜を持ってきてくれたり、入居者を訪ねてきてくれる。又、行事にお誘いしたり、地域の清掃日にはできる限りのスタッフを、参加させている。	※	利用者の散歩コースに、なじみの人達がいる、挨拶を交わしたり、花や野菜を頂く関係づくりができたので、継続していきたい。今後、より近隣の方とのつきあいが広がっていくように、声かけを多くしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) この地域は5000人ぐらいの地域で地元同士の絆は強く民生委員、老人クラブ、自治会、の活動を媒介に交流ができています。  (外部評価) ホームは地域の自治会、老人会に参加し、利用者は地域の文化祭に作品を出品するなどしている。また、地域の方がホーム行事に子どもと共に参加したり、必要時には作業を手伝ってくれたり、野菜を届けてくれる等の交流がある。	※	地域の産業文化祭へ手芸作品の出品ができたので、継続したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 1回/月地域のサロンに出かけて行ってレクリエーションのお手伝い 1回/年 地域の清掃日に参加 敬老会の手伝い(会場作り、後片付け)。6月にサロンに出かけ、認知症についての話ができた。サロンのメンバーも、こちらに来て交流が図れた。	※	自治会の多々良への地域清掃(1回・年)参加できているだけなので、今後は多々良のサロンにも参加したり、交流がもてるようにし、より地域をなじみたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 1回/月のユニット会で勉強会にも時間をとって自己評価の項目について話している。項目ごとに検討することで職員の意識が統一できるようなのである。  (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員は自己評価を行うことで支援の振り返りができると考えている。前回の評価後、運営推進会議に地域の幅広い層の方々の参加を依頼し、市との連携を深め、災害時の地元の協力を進め、居間に時計を増やす等の改善に取り組んでいる。	※	ユニット会・全体会で、自己評価の勉強会をもち、職員より具体的な改善策がより出るように検討したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会も10回となった。評価の報告や、その後の取り組みなど、少しづつは話しているが、まだ今後よりサービスの向上に生かせる会にしていかなければならないと思う。前年度は、民生委員・自治会長もメンバーに加わって下さった。	※	会議メンバーから率直な意見を頂き、デイサービス利用者の紹介や声かけ・協力(草引き・緊急時の避難)も出来つつあるが、会の内容を十分職員が把握できていないので、議事録等で把握できるようにしたい。
			(外部評価) 運営推進会議では、ホームの状況、行事・事業計画、家族会、外部評価、新たな試み等の報告をし、それらに対する質問・意見等を出してもらっている。会議での意見や地域の情報をホームのサービス向上に活かしている。ただ、参加者や議題がやや固定化する傾向にある。	※	開催ごとに違う家族に参加を依頼したり、防災がテーマの時は消防署の方や近所の方に出席してもらう等、幅広い層の参加者の確保が望まれる。また、時には地域住民を対象とした認知症や防災のミニ講演会を実施する等の柔軟な会議運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 担当者の方から中央の情報を連絡してくれたり、立ち寄ってくれたり事業所側も介護保険に関わることの聞き取りや地域の情報はいただいている。運営推進会にも毎回かかさず参加して下さっており、関係が深くなってきている。	※	利用者の日常の様子を、より理解して頂けるよう、行事のときにご案内したり、長期的なマネジメントなどについても話し合える機会をつくりたい。
			(外部評価) 市担当者から介護保険やホームの事業関連の情報を得たり、担当者の来訪時には支援の実態を知ってもらう等、相互に行き来する機会がある。そして、ホームは得られた情報や市担当者との話し合いを活かしてサービスの質向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 認知症実践者、リーダー研修の中にはカリキュラムとしてはいっているためまずこの研修にいけるように調整している。又、ユニット会で伝達研修をしている。様々な研修案内のなかで、経験、意識をかんがみ又家族には家族会で、直接の家族がいない方(甥、姪、兄弟)には個別に話している。	※	今年度は、事業所内研修のカリキュラムに取り上げており、理解に努め、利用者の中に必要とされる方がいれば活用できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常的に虐待となっていないか、管理者・職員相互に注意してみている。又マスコミや他の情報の中から事例を挙げ、自ホームは行っていないか等、いつも虐待にならないよう防止に努めている。	※	正しく理解し、防止に取り組めるように、心身共にストレスをためないようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・・契約書に添って説明、家族の思い、将来の不安、要望、など時間をかけて説明、聞き取りしている。 解約時・・解約になる前に十分な話し合いをしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) カンファレンスにはできる限り参加してもらったりはしているが介護相談員、や民生委員の介入はない	※	今後はご利用者に運営推進会にも参加を呼びかけ、声を反映させていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月利用料を案内するときパラディ便り、連絡事項、(職員の移動、イベントの案内、アンケートなど)又個別に写真など入れたお便りを送付している。金銭については、ほぼ毎月、検印していただいている。又アプリは更新時説明し検印いただいている。  (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時や電話で報告している。また月1回、ホーム便りや利用者の写真入りの便りを家族あてに送付している。金銭管理が可能な利用者は各自で管理し、その他の利用者はホームで行い、家族に出納帳の確認と押印を得ている。		職員の移動時、行事案内は、個別にパラディ便りと共に写真付きお便りを送付している。日常生活を写真に撮り、アルバムを面会時に見て頂いている。日常生活や、体調の変化のあった時、知人の面会があった時など、必要に応じてこまめにTELや面会時に報告している。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営規定の中で重要項目として苦情申し立て窓口、行政機関その他苦情受付機関を明記してあり来訪者の見えるところに貼ってある。意見箱も見えるところに設置してある。生活記録も家族が面会にこられたときはなるべく目を当ててもらえるように声かけている。  (外部評価) 家族等の意見・希望は、来訪時、家族会、運推進当会議等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	※	率直な意見が出るよう、家族との信頼関係をより深めたい。
				※	ホームの職員も参加しての家族会は、家族の思いが十分表せないこともあるため、会の中で家族だけで話し合う時間を設けて代表者が意見をまとめてホームに伝える等、会の運営の工夫を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者には1回/週 報告、 1回/月ユニット会、リーダー会、 2回/年全体会 を設けている。 2回/年 職務に対する自己評価をし管理者と面接の時間を設けて運営に反映している。その自己評価を運営者とも検討している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ぎりぎりの職員数でのシフトではあるが状況によりシフトの変更、調整はスタッフの理解のもとできている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 管理者や職員の意見を聞きながら異動や配置は配慮されている。  (外部評価) 運営者は職員の異動が最小限になるよう努めている。異動時は交替職員同士の重複勤務等で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		なじみの職員の移動時には、その後も行事の交流に参加し、面会が出来るようにし、配慮している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階的に職員の能力に応じて計画的に研修や勉強会ができるように配慮されている（長期にわたる研修も必要に応じて、資格を取るための研修も奨励している）  (外部評価) 運営者は職員の教育に力を入れ、資格取得を奨励しており、学習がサービスの質の向上に繋がると考えている。外部研修は職員の希望を聞きながら参加できるように配慮している。内部研修は月毎に計画を立てて実施している。	※	20年度より、運営者より管理者・リーダーへの勉強会があり、それをスタッフへと繋げていくようにしている。事業所内研修も今年度よりカリキュラムを組み、1回/月ユニット会で実施する。職員からも参加したい研修・勉強会を聞き取りしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 1回/月ネットワークの会、同業者のスタッフとの交流(実習の受け入れ)など質の向上への取り組みには配慮されている  (外部評価) 職員は地域のホーム同士の相互訪問や勉強会に参加し、学びや気づきをサービスの質向上に役立てている。地域の福祉事業者のネットワークにも参加し、学び合っている。	※	相互研修に参加したスタッフより他の事業所での取り組みを聞き、当事業所に取り入れたり、職員間の交流に繋げたい。今年度は、管理者も自主的な相互研修を行いたいと考えている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 時間どおりになかなかいかないが、休憩時間を交代で取るようにし、ストレスを溜め込まないよう配慮している。又、希望があれば、可能な限り、連休を組み入れ、リフレッシュして勤務にあたってもらっている。勤務表をつくる前には、希望休を聞いている。	※	時間通りになかなか休憩時間はとれないが、現場を離れてリフレッシュできる時間を持てるように1日の流れをリーダーが把握できるようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己評価表をもとに、面接、研修の復命書による自己の意識、理解力などスタッフの個別も把握した上で取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 地域の中でホームを知っていただくこと(地域の集まりに出かけるなど)をしつつ希望される方にはまず足を運んでいただく、見ていただく、入居者と触れ合っていただくを日常的に繰り返しながら、本人の意向も聞き取り家族との調整をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 極力家族とのコミュニケーションには気を配っている(スタッフと家族の会話、々地域の方同士など)傾聴を心がけている。家族とのかかわりは必要に応じて個別の場所、接遇のマナーなどスタッフ同士連携をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 常に関連の施設、事業所、医療機関などの連携はとっており必要に応じて調整はしている。	※	相談を受けた時、緊急性があるかどうかを把握しやすいように他機関の連携を密にしたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 今後のことを考慮するとグループホームが適当との家族、他機関の見解があったケースについてはホームのイベント、入居者との交流を勧め自然になじめるように配慮はしており何回も足を運んでいただいた上で本人、家族の意思を大切にしている。  (外部評価) 利用者が入居前に同系列のデイサービスやケアハウスを利用することで、職員や他の利用者、集団で過ごすことに馴染めるよう工夫している。また、職員が入居前から利用者を訪問し、顔馴染みになるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、本人を介護される一方の立場にはおいてはいない。本人と一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にしている。料理や園芸ばかりでなく、お互いに支えあう関係になってきている。  (外部評価) 職員は、料理・手芸・活け花・茶道・園芸等を、利用者と共に楽しみながら行っており、利用者から生活の知恵・漬物の漬け方・魚のさばき方・花の活け方等、学ぶことが多いと感じている。	※	理念に基づいて自立支援が出来るよう意識しながら、出来ないところの援助、本人の力を引き出すことを継続して行いたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。家族会は何かを一緒にしていただく計画をする、1年に何回かは家族も一緒に外出をし一緒に支えていただく、常に輪の中には家族が欠かせないという気持ちを持っていただく配慮を心がけている。		家族会への参加人数も増え、ユニットでの家族同士の話し合いも、なじみある雰囲気になり、外出時には協力(車椅子での移動等)も得ている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 嫁・姑・親子・兄弟など複雑な関係の中でなかなか困難なケースもあるが今よりは良い関係作りができるように支援はしている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の中でのなじみの関係を大切にし会いに行く支援、来ていただく支援、関係作りへの支援は日ごろから情報を得て取り組んでいる(兄弟、同級生、他事業所にいる方、地元の行事など)	※	このユニットは地域の人が少ないので、家族の協力を得て、その人の地元の行事などに参加できるように支援していきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 中には気の合わない人もおられるが、お互い気の合った人同士のグループがあり、誰も孤立はしていない。		このユニットは、同じ地域の人が少なく、気の合わない人もおられるので、職員が仲介し、その人の思いを傾聴し、利用者同士のトラブルにならないよう努めている。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) たとえば入院を余儀なくされた方には他の方の受診時は面会に行ったり、季節のものを届けたり、退所された方の家族には行事、イベントへの案内、推進会の委員の方はそのまま継続していただいたりなるべく縁が切れないような配慮はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。その情報をスタッフ同士で常に共有できるように、職員同士もコミュニケーションを多くとるようにしている。困難な場合は、理念に基づき、本人本位になるよう、検討している。  (外部評価) 利用者の思いや希望は、職員との会話や、利用者と共に 行う料理、畑の作物の収穫、おやつ作り、活け花等を通して把握するよう心がけている。	※	日常の会話・カンファレンス等で本人の思いを引き出せるようにし、その情報を共有できるようにしているが、職員の意識・気づきのなさに生活の質の向上に結びつかないことがないよう、ミーティングやモニタリングで検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族と連携をとりながら生活歴や馴染みを大切にしながら暮らしを援助するようにはしているが、一人暮らしや入院の長かった方の把握は難しい時もある。	※	入居時にセンター方式の情報が把握できるよう、ご家族にも記入・提出の協力をお願いしたい。面会時にもキーパーソン以外の方からの情報も得たい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の体調と生活リズムを把握し、その人に合った力の発揮ができるようにしている。	※	平均年齢87歳のユニットで、心身共に細心の配慮が必要であるが、なるべく生活リズムを崩さないよう1回/月の回診時に状態報告し、現状把握に努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ここでの生活は安全と安心が保障され、本人主体の生活が展開され生活になっているか、生活をサポートするための介護計画「その人のよりよい暮らしのための介護計画となっているか」は、機会あるごとに検討している。  (外部評価) 利用者毎に職員の担当者を決め、担当者が中心になり、他の職員・利用者も参加して、センター方式で介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、サインをいただいている。	※	本人の思いや家族の要望など担当者が聞きだし、チームとして取り組めるよう話し合い、本人本位の支援ができるよう検討を行う。今年度は、よりよい介護計画を作成していけるように、センター方式を取り入れたパラディ独自のアセスメントシートを作成していく予定にしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の状態の変化など、必要に応じて、介護計画の変更をしている。(モニタリング～再アセスメント～カンファレンス～ケアプラン再作成)カンファレンスには、できるだけ本人に参加してもらっている。ご家族には、電話で参加のお願いをしているが、なかなか参加になってこない。事前の電話で意向は聞いておく。  (外部評価) 介護計画はモニタリング、評価を行い、月に1回見直ししている。利用者の状況が変化した場合はその都度見直すことにしている。	※	本人や家族の思いは現場で実践できる介護計画になるよう見直し、期間にとらわれず、変化に応じて臨機応変に見直し、新たな要望を組み入れたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は細かく簡潔にを共有している。記録はわかりやすいように時間別に色を変えて記録したり、「排泄」などのキーワード記述をし、必要な情報が見やすいようにしている。又、食欲の低下時など、必要に応じて、様式を作り、ケアの質が向上するように柔軟な個別記録としている。	※	出勤時には、記録に目を通し、サインをし、確認する。リーダーは、その記録から情報を把握し、ケアの見直しのポイントに早く気付くように努め、共有しながら記録をケアに活かすようにしているが、今後もより向上できるようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 法話会・おやつクッキング・歌の会・など関連施設との交流も大切にしている。  (外部評価) 利用者や家族の状況に合わせ、急な受診の支援、墓参り、地域行事への参加、家族の宿泊等の柔軟な支援を行っている。	※	デイサービスの利用者は現在1名/週3回。今後、地域密着型事業所として、デイサービスの利用者が増え、地域とのつながりがより深くなればよい。ショートステイの申請を予定しており、できる限り要望を叶えたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員や老人会、ボランティアの方々と連携が取れたところである。地域の図書館、消防署や支所にパラディ便りの配布などを積極的に行っている。	※	さらに地域との関係が深まっていくように、地域資源の活用を増やしたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話をすることは多くあるが、本人が他のサービスを利用するには至っていない。本人の生活の幅を広げる意味で、今後検討していきたいと思う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在のところ、権利擁護事業を利用している人はいない。家族会などで話し、必要があれば繋げたい。総合的・長期的なケアマネジメントについては、地域包括支援センターとは協働できていない。波方支所の担当者と、この内容について、非公式に話すことはある。	※	今後、行政の方とも、認定調査や運営推進会の参加のみならず、マネジメントについても話し合う意識をお互いに持ち、利用者の生活について多角的な視点で捉えたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 現在のところは、かかりつけ医は全員が協力医であるが、本人家族の了解のもと状況に応じた診療が受けられるようにしている。家族の希望又は本人がな馴染みの医療機関にかかれるように支援している、(紹介状、事前の連絡)  (外部評価) 利用者や家族の希望にそった、かかりつけ医の受診を支援している。月に1回、協力医療機関による回診を実施している。		1回/月の回診。家族会で家族が望む医療機関のアンケートも実施して、希望を把握している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医が精神科医であり、認知症については常に連携し指示をいただきながら進行の予防に努めている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が、医師・関連の機関の看護師からも情報、アドバイスをいただいて、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院を余儀なくされた利用者に対しては入院先、関連施設、家族、スタッフと常に連携しながら早期退院、再入居が可能ないように支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの指針は作成し、契約時、カンファレンス時心身の状況の変化があったときなど、ミーティングの場で方針を話し合う機会は持っているがまだ看取りの現場の遭遇にいたっていない。ご家族・関連施設・主治医と密な関係をもち、本人・家族の意向にそった看取りができるよう、準備をしている。  (外部評価) 重度化や終末期の対応については、看取りの指針を作成し、早い時期から利用者・家族・かかりつけ医等と話し合っており、手厚い医療行為が必要になる直前まで対応可能としている。	※	今後、ターミナルケアも重要な課題であり、ご家族の意向をお聞きしたり、協力が必要であることなども、話し合う機会も持っている(可能なこと・不可能なことなど)。今後も検討を重ねていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度の方についても、本人の意思を大切に、「できること・できないこと」を体調に応じて見極めるよう努めている。重度化や終末期については機会あるごとに家族、本人を交えスタッフ、医療機関と連携はしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居前のかかわり、入居後のかかわりについて最大限の努力はしている。入居希望者本人と、よりなじみの関係が形成できると良いと思われる。		入居前になじみの関係が強くなるように、ケアハウスの入居者や地域の方との交流をより多くしたい。ケアハウスとの合同クッキングは、行くばかりではなく、当事業所にも来ていただくことを検討したい。
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 「一人ひとりが尊厳のある暮らし」ができる支援になっているか、職員の言動の振り返りを日々の中で振り返っている。又、対応はどうだったのか、職員同士でお互いの気づきを共有している。 <hr/> (外部評価) 利用者を尊重した丁寧な言葉かけ、誇りやプライバシーを大事にした対応を心がけている。利用者の記録類は個人情報の保護に配慮した取り扱い、管理をしている。	※	具体的に確認できるよう、言葉使いや態度を、職員同士の気づきの中から注意し合ったり、リーダーからの視点で職員に振り返りができるようミーティングをもつ。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) わかる力に合わせた支援や、本人の意思決定を心がけたケアをしているが、まだ不十分な職員も若干いるので、育成に力を入れたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員数の関係で、全てご利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り希望に添ったその日の暮らし方ができるように努力している。  (外部評価) 食事では利用者の食べる速度や力量に合った介助を行い、毎日入浴したい方にはその希望が叶うよう配慮する等、一人ひとりのペースを大事にした支援をしている。		その日の買物の希望時は、管理者にも協力を得て、対応できるようにしたり、本人と話し、買物の日をつくり、それまでに買物リストをつくったり、その人に合った支援ができるように努力している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と相談していきつけの美容院に行ったり、衣類も本人と一緒に買物に行ったりしている。その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえから調理・配膳・片付けまで、本人の体調やできることに配慮しながら、職員と一緒に楽しみながら行っている。  (外部評価) 前もって作られた献立表はあるが、利用者のその日の希望によって献立を変更し、食事を作っている。利用者は職員と共に、料理の下ごしらえや味付けをしたり、おしゃべりを楽しみながら食事している。ホームの中庭でバーベキューを行うこともある。		頂いた食材を利用し、利用者が調理できよう支援している。準備や後片付けは出来ることを日課として実施している。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人からは喫煙、飲酒の希望は聞かれないが行事の時・誕生日などに楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) センター方式のチェックシートの活用や、排泄の時間や習慣を把握できる期間を設けてトイレでの排泄につないでいる。	※	夜間のみPトイレ使用している方もいるが、排泄の自立が本人の快適な生活に繋がるように支援していきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は本人の希望にあわせて実施している。(時間、曜日、にこだわらない)  (外部評価) 入浴時間帯は概ね午後となっているが、一人ひとりが希望する日、時間に入浴が可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりのリズム、体調に合わせて休息、活動を支援している。	※	「したいことをさがそう」で生花・お抹茶・調理など支援できるようになった。本人からの訴えがない人・出ない人に対してメリハリのある生活ができるようご家族のもとと情報を得たい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力をいかした役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしているが、よりよくなるとよいと思われる。  (外部評価) 玄関や居間に花を活ける、近所を散歩する、作品を作る、買い物に行く、畑の作物を収穫する、料理の準備やおやつ作り等、利用者の楽しみごとや役割を支援している。	※	一人ひとりの生活歴や力をいかした役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしているが、よりよくなるよう、できること・したいことを探って生活の中に取り入れたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の了解のもとに、本人が自由に使えるように小口で出したり、預かったりしている。		現在6名が個人でお金を自己管理（小額）し、買物の時支払い出来ている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさないように、できるだけ希望にそって戸外に出かけられるように支援している。当日希望にそえない時は、説明し、後日支援している。喫茶・ドライブなど外出の機会は増えている。  (外部評価) 近くの森に出かけたり、神社にお参りに行ったり、行事で花見に行ったり、ドライブで遠出したり、喫茶を楽しむ等、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年間の行事の計画は、アンケートなどを中心に利用者家族の意見を聞きながら行っている。	※	ご家族に協力して頂き、機会を増やしたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 季節の挨拶などスタッフが援助しながら可能な限り絆をつないでいる（年賀状・暑中見舞い）。電話はいつでもかけられるようにユニットごとにある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 「笑顔で向かえ、笑顔で送り出す」を自然帯でできるようにミーティング、検討会でお互いに話し合っている。アンケートの項目にも雰囲気についてたずねたりもして気配りはしている。ソファの配置など、環境づくりにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティング・カンファレンス・ユニット会を通して、その人にとって拘束はどのような場面か、又ケアの中で拘束に該当するようなケアが見られないか、職員同士で話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関共に鍵をかけないケアをしている。安全面での配慮であるが、玄関にはチャイムがある。又、玄関を出てからは、職員が見守りをするように徹底している。7:00～19:00までは自由に出入りしている。  (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないことの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。安全面の配慮から、玄関にチャイムを設置している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは利用者を見守りやすい位置で作業している。スタッフの見守りやすい位置に利用者をもたらすのではなく、さりげなく利用者の動きにあわせてスタッフが動きを変えている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 生活に必要な物品はある人には危険と思われるようなものでも、取り除くのではなく、スタッフがどのように配慮すればその人にとって危険なものとならなくなるのか一つ一つ観察、検討しており、夜間の包丁の保管場所以外は特別除くようなことはしていない。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 1回/月のユニット会で前の月のひやり・はつとの検討をし防止対策をしている。万が一事故発生の場合の対応のマニュアル、緊急時、の対応はユニット会毎に想定して動き、手順を確認しあっている。内外の研修も積極的に参加している。(誤嚥のときの対応として手作りで吸引器も作りし設置している)		事故後すみやかに検討し、職員間で検討内容を共有できる様、連携している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 現在消防署からの協力で救急手当、蘇生術の研修は1回/年、症状別対応法、対処法はユニット会のとき振り返りなどしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練は2回/年、1回/月通報装置の使い方、消火器の確認をしている。関連施設、消防署、(近くに支所がある)、G・H間の協力など訓練のときに連絡確認をしている、3月の家族会、6月の紫陽花会、1回/2ヶ月の運営推進会を活用して地域の方への協力をお願いしている。運営推進会のメンバーにも、防災訓練に参加して頂いた。  (外部評価) 年に2回、夜間想定を含めた防災訓練を行っている。地域の方が災害時に備えてホームの非常口を確認してくれたり、近所の方が災害時に応援にかけつける等の仕組みができています。非常時の備蓄は同系列の事業所で保管している。	※	まず火災をおこさないを徹底し、普段からコンセントをぬいたり、埃に注意している。避難訓練も夜間も想定して実施したり、実際に消火器を使用する。地元の多々良サロン参加者に非常口の確認をしてもらったり、近所の方への応援の依頼もできている。連絡網など整備していきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 危険に対して、自己決定の場面においてリスクが高くても、そのために生活の中で制限や抑圧はしていない、家族も状況の説明を受け把握した上でスタッフと一緒に関わっていただき利用者の状態を理解していただいている。また面会時は生活記録も見ていただき日々の状況を知っていただくようにもしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 本人の普段のバイタルなど普段の様子をしっかりと情報共有している。普段と違った様子があれば、速やかにリーダーや看護師・管理者に報告と相談があり、対応できている。		口頭での申し送りだけでなく、ユニットノート・全体ノートを使い、情報を共有している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて、日常的に確認しており、処方変更になったり医療的な記録は色を変えて記入する。又、症状、処方の変化・変更は口頭の申し送りと連絡帳で共有する。又、薬の効果・副作用・相乗効果などは医師・薬剤師から説明を受け、情報共有ができています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のサイクルを個々に把握している。便秘しやすい方は食物や飲み物・運動・マッサージでまず調整。スムーズは排泄につながるようにしているが、下剤・浣腸を使用される方もおられるが、薬が不快にならないよう、できるだけ少量で自然は排泄になるよう、医師と相談しながらケアしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な口腔ケアの研修もかかりつけの歯科より受けている。ほとんどの利用者は入れ歯、差し歯でかめる。毎食後の歯磨き、寝る前の義歯の洗浄は、一人ひとりの状況に応じて援助している。	※	歯科の定期健診をしていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量、水分量は記録している、一人ひとりの好みも把握しており献立に入れている。栄養の管理は、関連施設の栄養士に指導をもらいスタッフの中には栄養士、調理師もあり、食については様々な角度から支援している。  (外部評価) 食事・水分摂取量は都度チェックしている。一人ひとりの状態に合わせてきざみ食や軟食にするなど、利用者の力量に合った支援をしている。栄養バランスやカロリーは系列事業所の栄養士が管理している。		残食により、その日の体調・歯の具合など変化に気付くようにしている。その時に個別に食事量・水分量を記録し、必要があれば医療に繋ぎ、捕食するなど、支援の方法を適切に考えている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルはそれぞれの感染症別ある。管理表、管理チェック表をもとに、流行前の対策会・来訪者への予防案内する。食品の持込の確認に対応に配慮しながら、又施設内では利用・職員は手洗い・うがいは必ず、衛生管理表、清掃のチェックをして、感染症にならないように意識してケアに当たっている。		来訪者への手洗い・うがいの声かけ、利用者・職員の手洗い・うがいも徹底している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ふきんは毎日漂白・食洗器を活用して洗浄、殺菌、除菌している。食材は毎日買い物に出かけ、新鮮なものを確認して購入している、主に調理は栄養士、調理師の資格を持った職員にもらい他の職員は、衛生面の指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 自然環境に恵まれたホームであり、木のぬくもりを感じて入りやすいと評判がよい。工夫としては、毎年紫陽花を挿し木して増やし、花を媒介に地域の人が寄ってきてくれるようなホームにしたい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、食堂、は1フロアになっており季節を配慮。自然な生活を感じる場面作りに気をつけている。洗濯場・浴室・トイレなどの不快な音は感じられない。日本の習慣を大切に、季節の飾りを工夫している。ユニット内の時計を増やした。  (外部評価) ホーム内は木材を多用し、和紙の照明器具を用い、ゆったりとした空間で温かく落ち着いた雰囲気がある。居間には季節の花や飾り、利用者の作品や写真、手作りの暦、見やすい時計等があり、居心地よく過ごせる工夫がある。その他の共用空間も清潔感があり、気になる匂いもない。	※	トイレの共用の問題点：トイレ使用中の扉の開閉でいやな思いをされることが多い。使用中の札をつくったり、職員が「今、使っています。」「鍵をかけて下さいね。」の声かけはしている。ご利用者の声を聴きながら、季節の行事や料理も取り入れている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 中庭のベンチ、居間にははところどころにソファを置いたりそれぞれの居場所があるように配慮をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よいその人らしい部屋になるよう、ご家族の協力を得ながら、好みのもやなじみの物を置いて環境づくりをしている。もう少し、ご家族の協力の欲しい方もいらっしゃるが、否めない。  (外部評価) 居室にはお気に入りの人形や時計、使い慣れた小ダンス、テレビ、仏壇等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。居室の入口に手作り品を取り付けたり、居室ごとに名前をつけ、部屋間違いを防ぐ工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に気をつけており、寒暖計湿度計を見ながら、外気との温度差に注意しながら、冷暖房を使用・調整している。居室の温度も居間や食堂とバランスをとっている。トイレは入り口を開ければ換気扇が動くようになっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 心身の状況が変われば、家具を動かして行動がしやすいように、洗たく干しは身長にあわせて干せるようにしている。、全自動の洗濯機も使いやすく番号を書いている。台所のIH・水道の蛇口(レバー)が使えない方がおられ、IHは安全面から考えると、取替えが難しい。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ自立した生活ができるように、ミーティング、カンファレンス、ユニット会で話し合っている。		新しい機械の操作(TVのリモコン・携帯TEL)など、その都度丁寧に対応している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭があって日当たりも良く、レクリエーション、日光浴、イベント、玄関横にはベンチ、などがあり多機能に使っている。園芸も楽しんでおられる。	※	現在も中庭や畑を楽しみにしておられるが、今後もより楽しみの場となるように、支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	ゆったり和やかに過ごせる時間も増えてきた。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度の高い利用者が少なく、本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の関わり・ご利用者のよい相互関係・本人のプライベート時間の過ごし方で、穏やかな表情や笑顔が見られることが多い。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で、必ずしもいつも行きたい所へ行くことは出来ていないが、出来る限りの希望にそっている。体調をみながら、出来るだけ戸外にも出られるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになっている。主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできているが、より信頼関係を深めたい。管理者が交代したので、ご家族の理解・信頼関係が深まるよう、さらなる努力を重ねたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、時々地域の方の訪問がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	第10回の運営推進会議を重ねてきた。交流が少しずつ深くなり、理解が広がってきている。町内会の方が草刈のボランティアに来てくれたり、野菜を届けてくれたりしてる。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護の仕事が好きな職員ばかりで、皆生き活きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何か希望があったときはできるだけ対応しているので、表情もよく笑顔も多く、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。要望をいつもお聞きし、何でも言って頂けるようにしている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・理念を大切にし、利用者本位のサービスを提供できるように取り組んでいます。
- ・医療と密な連携を取り、安全で安心して生活できるようにしています。
- ・地域の中で、地域密着型サービス事業所として、地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。
- ・ご利用者・ご家族・地域・医療・職員 これらの絆を大切に、ご利用者の生活の質の向上に努めています。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 花ユニット

記入者(管理者)  
氏名 高橋 正子

評価完了日 平成 20 年 5 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 現在作り上げている理念は、開設当初経営者、スタッフで考え、作ったものであり、日々理念をもとにケアしてきた。4年経って職員の入れ替わりもあったが理念に添った生活援助は職員の意識の中に定着している。  (外部評価) 経営者、管理者、職員で話し合っつくりあげた、利用者主体の分かりやすい理念である。更に、理念を具体的に行動指針として表わし、地域で暮らし続けることへの支援も明記している。理念と行動指針は居間・事務室に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ユニット会・カンファレンス時・ケアプラン作成時・日常のケアの中で、常に理念を意識しており、実践し、又、より実践が向上できるように努めている。  (外部評価) 職員は理念が身近なものとして取り組めるよう、各ユニットで月目標を作り、振り返りを行っている。理念や行動指針は、介護計画の作成時や、日々のケアでの迷いがある時などに意識するよう心がけ、日々の支援に繋がっている。	※	今年度より新たに、「したいことをさがそう」を行動指針に加えた事で、よりその人らしい暮らしをしていただけるよう取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族会の時や・事業所便りの中で・日常のご家族との関わりの中で、機会あるごとにお伝えしてきている。地域の方にも、サロンの方の見学や運営推進会の時などにお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 4年経って徐々にお付き合いができるようになった。近所の方が野菜を持ってきてくれたり、入居者を訪ねてきてくれる。又、行事にお誘いしたり、地域の清掃日にはできる限りのスタッフを参加させている。	※	今後、より近隣の方とのつきあいが広まるよう、まだ関わりのない近隣の方にも理解が得られるような働きかけをしたい。また、地域の独居の方や日中独居の方を訪問するなど、普通の近所づきあいとなるよう声かけから始めたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) この地域は5000人ぐらいの地域で地元同士の絆は強く民生委員、老人クラブ、自治会、の活動を媒介に交流ができています  (外部評価) ホームは地域の自治会、老人会に参加し、利用者は地域の文化祭に作品を出品するなどしている。また、地域の方がホーム行事に子どもと共に参加したり、必要時には作業を手伝ってくれたり、野菜を届けてくれる等の交流がある。	※	地域の産業文化祭へ手芸作品の出品ができたので、継続したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 1回/月地域のサロンに出かけて行ってレクリエーションのお手伝い 1回/年 地域の清掃日に参加 敬老会の手伝い(会場作り、後片付け)。6月にサロンに一ヶ所出掛け、認知症についての話ができた。サロンのメンバーもこちらに来て、交流が図れた。	※	自治会の多々良への地域清掃(1回・年)参加できているだけなので、今後は多々良のサロンにも参加したり、交流がもてるようにし、より地域となじみたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 1回/月のユニット会で勉強会にも時間をとって自己評価の項目について話している。項目ごとに検討することで職員の意識が統一できるようなのである。  (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員は自己評価を行うことで支援の振り返りができると考えている。前回の評価後、運営推進会議に地域の幅広い層の方々の参加を依頼し、市との連携を深め、災害時の地元の協力を進め、居間に時計を増やす等の改善に取り組んでいる。	※	ユニット会・全体会で、自己評価の勉強会をもち、職員より具体的な改善策がより出るように検討したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会も10回となった。評価の報告や、その後の取り組みなど、少しずつは話しているが、まだ今後よりサービスの向上に生かせる会にちていくことが必要だと思う。前年度は、民生委員・自治会長もメンバーに加わって下さった。	※	会議メンバーから率直な意見を頂き、デイサービス利用者の紹介や声かけ・協力(草引き・緊急時の避難)も出来つつあるが、会の内容を十分職員が把握できていないので、議事録等で把握できるようにしたい。リーダーが4月から交代したので、新リーダーも運営推進会に参加できるようにしたい。
			(外部評価) 運営推進会議では、ホームの状況、行事・事業計画、家族会、外部評価、新たな試み等の報告をし、それらに対する質問・意見等を出してもらっている。会議での意見や地域の情報をホームのサービス向上に活かしている。ただ、参加者や議題がやや固定化する傾向にある。	※	開催ごとに違う家族に参加を依頼したり、防災がテーマの時は消防署の方や近所の方に出席してもらおう等、幅広い層の参加者の確保が望まれる。また、時には地域住民を対象とした認知症や防災のミニ講演会を実施する等の柔軟な会議運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 担当者の方から中央の情報を連絡してくれたり、立ち寄ってくれたり事業所側も介護保険に関わることの聞き取りや地域の情報はいただいている。運営推進会にも毎回かさず参加して下さっており、関係が深くなってきている。	※	利用者の日常の生活の様子を、より理解して頂けるよう、行事のときにご案内したり、長期的なマネジメントなどについても話し合える機会をつくりたい。
			(外部評価) 市担当者から介護保険やホームの事業関連の情報を得たり、担当者の来訪時には支援の実態を知ってもらう等、相互に行き来する機会がある。そして、ホームは得られた情報や市担当者との話し合いを活かしてサービスの質向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 認知症実践者、リーダー研修の中にはカリキュラムとしてはいっているためまずこの研修にいけるように調整している。又、ユニット会で伝達研修をしている。様々な研修案内のなかで、経験、意識をかんがみ又家族には家族会で、直接の家族がいない方(甥、姪、兄弟)には個別に話している。	※	今年度は、事業所内研修のカリキュラムに取り上げており、理解に努め、利用者の中に必要とされる方がいれば活用できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常的に虐待となっていないか、管理者・職員相互に注意してみている。又マスコミや他の情報の中から事例を挙げ、自ホームは行っていないか等、いつも虐待にならないよう防止に努めている。	※	正しく理解し、防止に取り組めるように、心身共にストレスをためないようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・・契約書に添って説明、家族の思い、将来の不安、要望、など時間をかけて説明、聞き取りをしている。 解約時・・解約になる前に十分な話し合いをしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) カンファレンスにはできる限り参加してもらったりはしているが介護相談員、や民生委員の介入はない。利用者に意見をできるだけ言っていただけるように、日常的によく意見を求めるように努力している。	※	利用者に運営推進会に参加して頂いたこともあるが、本人が混乱されたので、今後は日常生活の中でいろいろな意見を求めて反映させていけたらよいと考えている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月利用料を案内するときパラディ便り、連絡事項、(職員の移動、イベントの案内、アンケートなど)又個別に写真など入れたお便りを送付している。金銭については、ほぼ毎月、検印していただいている。又アプリは更新時説明し検印いただいている。  (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時や電話で報告している。また月1回、ホーム便りや利用者の写真入りの便りを家族あてに送付している。金銭管理が可能な利用者は各自で管理し、その他の利用者はホームで行い、家族に出納帳の確認と押印を得ている。		面会に来られた度に、健康状態等、近況の報告を行っている。又、体調の変化があった時や、知人の面会があった時等、必要に応じてTELでの報告も行っている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営規定の中で重要項目として苦情申し立て窓口、行政機関その他苦情受付機関を明記してあり来訪者の見えるところに貼ってある。意見箱も見えるところに設置してある。生活記録も家族が面会にこられたときはなるべく目を当ててもらえるように声かけしている。  (外部評価) 家族等の意見・希望は、来訪時、家族会、運推進常会議等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	※  ※	率直な意見が出るよう、家族との信頼関係をより深めたい。  ホームの職員も参加しての家族会は、家族の思いが十分表せないこともあるため、会の中で家族だけで話し合う時間を設けて代表者が意見をまとめてホームに伝える等、会の運営の工夫を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者には1回/週 報告、 1回/月ユニット会、リーダー会、 2回/年全体会 を設けている。 2回/年 職務に対する自己評価をし管理者と面接の時間を設けて運営に反映している。その自己評価を運営者とも検討している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ぎりぎりの職員数でのシフトではあるが状況によりシフトの変更、調整はスタッフの理解のもとできている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 管理者や職員の意見を聞きながら異動や配置は配慮されている  (外部評価) 運営者は職員の異動が最小限になるよう努めている。異動時は交替職員同士の重複勤務等で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階的に職員の能力に応じて計画的に研修や勉強会ができるように配慮されている（長期にわたる研修も必要に応じて、資格を取るための研修も奨励している）  (外部評価) 運営者は職員の教育に力を入れ、資格取得を奨励しており、学習がサービスの質の向上に繋がると考えている。外部研修は職員の希望を聞きながら参加できるよう配慮している。内部研修は月毎に計画を立てて実施している。	※	20年度より、運営者より管理者・リーダーへの勉強会があり、それをスタッフへと繋げていくようにしている。事業所内研修も今年度よりカリキュラムを組み、1回/月ユニット会で実施する。職員からも参加したい研修・勉強会を聞き取りしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 1回/月ネットワークの会、同業者のスタッフとの交流(実習の受け入れ)など質の向上への取り組みには配慮されている  (外部評価) 職員は地域のホーム同士の相互訪問や勉強会に参加し、学びや気づきをサービスの質向上に役立てている。地域の福祉事業者のネットワークにも参加し、学び合っている。	※	相互研修に参加したスタッフより他の事業所での取り組みを聞き、当事業所に取り入れたり、職員間の交流に繋げたい。今年度は、管理者も自主的な相互研修を行いたいと考えている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 時間どおりになかなかいかないが、休憩時間を交代で取るようにし、ストレスを溜め込まないよう配慮している。又、希望があれば、可能な限り、連休を組み入れ、リフレッシュして勤務にあたってもらっている。勤務表をつくる前には、希望休を聞いている。	※	時間通りになかなか休憩時間はとれないが、現場を離れてリフレッシュできる時間を持てるように1日の流れをリーダーが把握できるようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己評価表をもとに、面接、研修の復命書による自己の意識、理解力などスタッフの個別も把握した上で取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 地域の中でホームを知っていただくことへの努力(地域の集まりに出かけるなど)をしつつ希望される方にはまず足を運んでいただく、見ていただく、入居者と触れ合っていたくを日常的に繰り返しながら、本人の意向も聞き取り家族との調整をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 極力家族とのコミュニケーションには気を配っている(スタッフと家族の会話、々地域の方向士など)傾聴を心がけている。家族とのかかわりは必要に応じて個別の場所、接遇のマナーなどスタッフ同士連携をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 常に関連の施設、事業所、医療機関などの連携はとっており必要に応じて調整はしている。	※	相談を受けた時、緊急性があるかどうかを把握しやすいように他機関との連携を密にしたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 今後のことを考慮するとグループホームが適当との家族、他機関の見解があったケースについてはホームのイベント、入居者との交流を勧め自然になじめるように配慮はしており何回も足を運んでいただいた上で本人、家族の意思を大切にしている。  (外部評価) 利用者が入居前に同系列のデイサービスやケアハウスを利用することで、職員や他の利用者、集団で過ごすことに馴染めるよう工夫している。また、職員が入居前から利用者を訪問し、顔馴染みになるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、本人を介護される一方の立場にはおいてはいない。本人と一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にしている。料理や園芸ばかりでなく、お互いに支えあう関係になってきている。  (外部評価) 職員は、料理・手芸・活け花・茶道・園芸等を、利用者と共に楽しみながら行っており、利用者から生活の知恵・漬物の漬け方・魚のさばき方・花の活け方等、学ぶことが多いと感じている。	※	理念に基づいて自立支援が出来るよう意識しながら、出来ないところの援助、本人の力を引き出すことを継続して行いたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。家族会は何かを一緒にしていただく計画をする、1年に何回かは家族も一緒に外出をし一緒に支えていただく、常に輪の中には家族が欠かせないという気持ちを持っていただく配慮を心がけている。		本人の状況を知って頂き、家族の協力を得ながら、共に支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 嫁・姑・親子・兄弟など複雑な関係の中でなかなか困難なケースもあるが今よりは良い関係作りができるように支援はしている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の中でのなじみの関係を大切にし会いに行く支援、来ていただく支援、関係作りへの支援は日ごろから情報を得て取り組んでいる(兄弟、同級生、他事業所にいる方、地元の行事など)	※	地域の他事業のデイサービスより、「友人(ご利用者の)が何人か来ているので会いに時々来ませんか。」との誘いもあり、相互に交流が出来るとういと考えている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 席の配置やさりげない声掛けで、気の合う方の隣りに座って頂くことで、利用者同士の支え合いが多くあり、利用者同士の関わり合いが多くあり、利用者同士の支え合いはよくできている。	※	今後、利用者同士の関係がより深まるように支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) たとえば入院を余儀なくされた方には他の方の受診時は面会に行ったり、季節のものを届けたり、退所された方の家族には行事、イベントへの案内、推進会の委員の方はそのまま継続していただいたりなるべく縁が切れないような配慮はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。その情報をスタッフ同士で常に共有できるように、職員どおしもコミュニケーションを多くとるようにしている。困難な場合は、理念に基づき、本人本位になるよう、検討している。  (外部評価) 利用者の思いや希望は、職員との会話や、利用者と共に料理、畑の作物の収穫、おやつ作り、活け花等を通して把握するよう心がけている。	※	今後、さらに本人の思いが生活に取り入れることができるように、努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族と連携をとりながら生活歴や馴染みを大切にしながら暮らしを援助するようにはしているが、一人暮らしや入院の長かった方の把握は難しい時もある。	※	入居時にセンター方式の情報が把握できるよう、ご家族にも記入・提出の協力をお願いしたい。面会時にもキーパーソン以外の方からの情報も得たい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の体調と生活リズムを把握し、その人に合った力の発揮ができるようにしている。	※	平均年齢86.1歳のユニットで、心身共に細心の配慮が必要であるが、なるべく生活リズムを崩さないよう1回/月の回診時に状態報告し、現状把握に努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ここでの生活は安全と安心が保障され、本人主体の生活が展開され生活になっているか、生活をサポートするための介護計画「その人のよりよい暮らしのための介護計画となっているか」、は機会あるごとに検討している。  (外部評価) 利用者毎に職員の担当者を決め、担当者が中心になり、他の職員・利用者も参加して、センター方式で介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、サインをいただいている。	※	今年度は、よりよい介護計画を作成していけるように、センター方式を取り入れたパラディ独自のアセスメントシートを作成していく予定にしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の状態の変化など、必要に応じて、介護計画の変更をしている。(モニタリング～再アセスメント～カンファレンス～ケアプラン再作成)カンファレンスには、できるだけ本人に参加してもらっている。ご家族には、電話で参加のお願いをしているが、なかなか参加になってこない。事前の電話で意向は聞いておく。  (外部評価) 介護計画はモニタリング、評価を行い、月に1回見直ししている。利用者の状況が変化した場合はその都度見直すことにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は細かく簡潔にを共有している。記録はわかりやすいように時間別に色を変えて記録したり、「排泄」などのキーワード記述をし、必要な情報が見やすいようにしている。又、食欲の低下時など、必要に応じて、様式を作り、ケアの質が向上するように柔軟な個別記録としている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 遠方の家族の宿泊、などは支援している。帰宅願望の強い時は、職員が自宅についていき、少し自宅で過ごすこともある。ご家族と連携をとり、本人が穏やかに過ごせるように、できるだけの努力をしている。法話会・おやつッキング・歌の会・など関連施設との交流も大切にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者や家族の状況に合わせ、急な受診の支援、墓参り、地域行事への参加、家族の宿泊等の柔軟な支援を行っている。		菊花展・地方祭・関連施設の催しもの等にも出かけることができた。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員や老人会、ボランティアの方々と連携が取れたところである。地域の図書館、消防署や支所にパラディ便りの配布などを積極的に行っている。	※	さらに地域との関係が深まっていくように、地域資源の活用を増やしたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話をすることは多くあるが、本人が他のサービスを利用するには至っていない。本人の生活の幅を広げる意味で、今後検討していきたいと思う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在のところ、権利擁護事業を利用している人はいない。家族会などで話し、必要があれば繋げたい。総合的・長期的なケアマネジメントについては、地域包括支援センターとは協働できていない。波方支所の担当者、この内容について、非公式に話すことはある。	※	今後、行政の方とも、認定調査や運営推進会の参加のみならず、マネジメントについても話し合う意識をお互いに持ち利用者の生活について、多角的な視点で捉えたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 現在のところは、かかりつけ医は全員が協力医であるが、本人家族の了解のもと状況に応じた診療が受けられるようにしている。家族の希望又は本人がな馴染みの医療機関にかかれるように支援している、(紹介状、事前の連絡)  (外部評価) 利用者や家族の希望にそった、かかりつけ医の受診を支援している。月に1回、協力医療機関による回診を実施している。		1回/月の回診。家族会で家族が望む医療機関のアンケートも実施して、希望を把握している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医が精神科医であり、認知症については常に連携し指示をいただきながら進行の予防に努めている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が、医師・関連の機関の看護師からも情報、アドバイスをいただいて、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院を余儀なくされた利用者に対しては入院先、関連施設、家族、スタッフと常に連携しながら早期退院、再入居が可能ないように支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの指針は作成し、契約時、カンファレンス時心身の状況の変化があったときなど、ミーティングの場で方針を話し合う機会は持っているがまだ看取りの現場の遭遇にいたっていない  (外部評価) 重度化や終末期の対応については、看取りの指針を作成し、早い時期から利用者・家族・かかりつけ医等と話し合っており、手厚い医療行為が必要になる直前まで対応可能としている。	※	今後、ターミナルケアも重要な課題であり、ご家族の意向をお聞きしたり、協力が必要であることなども、話し合う機会も持っている(可能なこと・不可能なことなど)。今後も検討を重ねていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度の方についても、本人の意思を大切に、「できること・できないこと」を体調に応じて見極めるよう努めている。重度化や終末期については機会あるごとに家族、本人を交えスタッフ、医療機関と連携はしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居前のかかわり、入居後のかかわりについて最大限の努力はしている。入居希望者本人と、よりなじみの関係が形成できると良いと思われる。	※	入居前になじみの関係が強くなるように、ケアハウスの入居者や地域の方との交流をより多くしたい。ケアハウスとの合同クッキングは、行くばかりでなく、当事業所にも来ていただくことを検討したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 「一人ひとりが尊厳の有る暮らし」ができる支援になっているか、職員の言動の振り返りを日々の中で振り返っている。又、対応はどうだったのか、職員同士でお互いの気づきを共有している。 <hr/> (外部評価) 利用者を尊重した丁寧な言葉かけ、誇りやプライバシーを大事にした対応を心がけている。利用者の記録類は個人情報の保護に配慮した取り扱い、管理をしている。	※	慣れあいの言葉かけをしてしまう事がある為、今後は徹底していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) わかる力に合わせた支援や、本人の意思決定を心がけたケアをしているが、まだ不十分な職員も若干いるので、育成に力を入れたい。	※	情報を共有し、職員のケアの統一が図れるよう取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ぎりぎりの職員数であるが、出来る限り希望に添えるよう支援している。  (外部評価) 食事では利用者の食べる速度や力量に合った介助を行い、毎日入浴したい方にはその希望が叶うよう配慮する等、一人ひとりのペースを大事にした支援をしている。	※	気分の落ち込んだ時や、買物の希望などにも、すぐ対応できるように努力してきた。今後の継続して、できるだけ希望を取り入れたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と相談していきつけの美容院に行ったり、衣類も本人と一緒に買物に行ったりしている。その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえから調理・配膳・片付けまで、本人の体調やできることに配慮しながら、職員と一緒に楽しみながら行っている。  (外部評価) 前もって作られた献立表はあるが、利用者のその日の希望によって献立を変更し、食事を作っている。利用者は職員と共に、料理の下ごしらえや味付けをしたり、おしゃべりを楽しみながら食事している。ホームの中庭でバーベキューを行うこともある。		献立を立てる際は、ご利用者に希望を聞きながら立てている。又、日常の会話の中で、好きな食べ物・食べたい物をお聞きし、献立に取り入れている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人からは喫煙、飲酒の希望は聞かれないが行事の時・誕生日などに楽しんでいる。		10時・3時に提供する飲み物は、一人ずつに聞き好みのものを提供している。おやつは、体調や食事とのバランス・既往症に応じたものを提供している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) センター方式のチェックシートの活用や、排泄の時間や習慣を把握できる期間を設けてトイレでの排泄につないでいる。	※	食事・水分・運動など、快適な排泄に繋がるように努力しているが、服薬しないと排泄に繋がりにくい方もおられる。本人に合った量やタイミングをうまく調整できるよう、継続して努力していきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は本人の希望にあわせて実施している。(時間、曜日、にこだわらない)  (外部評価) 入浴時間帯は概ね午後となっているが、一人ひとりが希望する日、時間に入浴が可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりのリズム、体調に合わせて休息、活動を支援している。	※	本人からの訴えがない人・出ない人に対してメリハリのある生活ができるようご家族のもと情報を得たい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力をいかした役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしているが、よりよくなるとよいと思われる。  (外部評価) 玄関や居間に花を活ける、近所を散歩する、作品を作る、買い物に行く、畑の作物を収穫する、料理の準備やおやつ作り等、利用者の楽しみごとや役割を支援している。	※	ホームの外での楽しみごと・気分転換の支援が出来るように取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の了解のもとに、本人が自由に使えるように小口で出したり、預かったりしている。	※	本人が小口でお金を持っている方もおられ、買物にも同行している。本人の希望のものは家族に了解を得て購入しているが、今後も必要なものは、スムーズに購入できるよう、本人の思いを繋げたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさないように、できるだけ希望にそって戸外に出かけられるように支援している。当日希望にそえない時は、説明し、後日支援している。喫茶・ドライブなど外出の機会は増えている。畑づくり・プランターでの園芸をされる方もおられ、又、それを見に外に出て楽しめる方も多い。  (外部評価) 近くの森に出かけたり、神社にお参りに行ったり、行事で花見に行ったり、ドライブで遠出したり、喫茶を楽しむ等、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年間の行事の計画は、アンケートなどを中心に利用者家族の意見を聞きながら行っている。	※	ご家族に協力して頂き、機会を増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 季節の挨拶などスタッフが援助しながら可能な限り絆をつないでいる（年賀状・暑中見舞い）。電話はいつでもかけられるようにユニットごとにある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 「笑顔で向かえ、笑顔で送り出す」を自然体でできるようにミーティング、検討会でお互いに話し合っている。アンケートの項目にも雰囲気についてたずねたりもして気配りをしている。ソファの配置など、環境づくりにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティング・カンファレンス・ユニット会を通して、その人にとって拘束はどのような場面か、又ケアの中で拘束に該当するようなケアが見られないか、職員同士で話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関共に鍵をかけないケアをしている。安全面での配慮であるが、玄関にはチャイムがある。又、玄関を出てからは、職員が見守りをするように徹底している。7:00～19:00までは自由に出入りしている。  (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないことの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。安全面の配慮から、玄関にチャイムを設置している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは利用者を見守りやすい位置で作業している。スタッフの見守りやすい位置に利用者連れてくるのではなく、さりげなく利用者の動きにあわせてスタッフが動きを変えている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 生活に必要な物品はある人には危険と思われるようなものでも、取り除くのではなく、スタッフがどのように配慮すればその人にとって危険なものとならなくなるのか一つ一つ観察、検討しており、夜間の包丁の保管場所以外は特別除くようなことはしていない。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 1回/月のユニット会で前の月のひやり・はっとの検討をし防止対策をしている。万が一事故発生の場合の対応のマニュアル、緊急時、の対応はユニット会毎に想定して動き、手順を確認しあっている。内外の研修も積極的に参加している。(誤嚥のときの対応として手作りで吸引器も作りし設置している)		事故後すみやかに検討し、職員間で検討内容を共有できる様、連携している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 現在消防署からの協力で救急手当で、蘇生術の研修は1回/年、症状別対応法、対処法はユニット会のとき振り返りなどしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練は2回/年、1回/月通報装置の使い方、消火器の確認をしている。関連施設、消防署、(近くに支所がある)、G・H間の協力など訓練のときに連絡確認をしている、3月の家族会、6月の紫陽花会、1回/2ヶ月の運営推進会を活用して地域の方への協力をお願いしている。運営推進会のメンバーに防災訓練にも参加していただいた。 ..... (外部評価) 年に2回、夜間想定を含めた防災訓練を行っている。地域の方が災害時に備えてホームの非常口を確認してくれたり、近所の方が災害時に応援にかけつける等の仕組みができています。非常時の備蓄は同系列の事業所で保管している。	※	まず火災をおこさないを徹底し、普段からコンセントをぬいたり、埃に注意している。避難訓練も夜間も想定して実施したり、実際に消火器を使用する。地元の多々良サロン参加者に非常口の確認をしてもらったり、近所の方への応援の依頼もできている。今後、連絡網を整備していきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 危険に対して、自己決定の場面においてリスクが高くても、そのために生活の中で制限や抑圧はしていない、家族も状況の説明を受け把握した上でスタッフと一緒に関わっていただき利用者の状態を理解していただいている。また面会時は生活記録も見ていただき日々の状況を知っていただくようにもしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 本人の普段のバイタルなど普段の様子をしっかり情報共有している。普段と違った様子があれば、速やかにリーダーや看護師・管理者に報告と相談があり、対応できている。		口頭での申し送りだけでなく、ユニットノート・全体ノートを使い、情報を共有している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて、日常的に確認しており、処方の変更になったり医療的な記録は色を変えて記入する。又、症状、処方の変化・変更は口頭の申し送りと連絡帳で共有する。又、薬の効果・副作用・相乗効果などは医師・薬剤師から説明を受け、情報共有ができています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のサイクルを個々に把握している。便秘しやすい方は食物や飲み物・運動・マッサージでまず調整。スムーズは排泄につながるようにしているが、下剤・浣腸を使用される方もおられるが、薬が不快にならないよう、できるだけ少量で自然は排泄になるよう、医師と相談しながらケアしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な口腔ケアの研修もかかりつけの歯科より受けている。ほとんどの利用者は入れ歯、差し歯でかめる。毎食後の歯磨き、寝る前の義歯の洗浄は、一人ひとりの状況に応じて援助している。	※	ご利用者の定期的な歯科検診を行いたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好みも把握しており献立に入れている。栄養の管理は、関連施設の栄養士に指導をもらいスタッフの中には栄養士、調理師もあり、食については様々な角度から支援している。  (外部評価) 食事・水分摂取量は都度チェックしている。一人ひとりの状態に合わせてきざみ食や軟食にするなど、利用者の力量に合った支援をしている。栄養バランスやカロリーは系列事業所の栄養士が管理している。		食事量・水分量の減っている方のみ記録をつけ、職員が摂取量を把握することで、捕食の提供や、小まめな声かけ等、個々にあわせた支援をしている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルはそれぞれの感染症別ある。管理表、管理チェック表をもとに、流行前の対策会・来訪者への予防案内する。食品の持込の確認に対応に配慮しながら、又施設内では利用・職員は手洗い・うがいは必ず、衛生管理表、清掃のチェックをして、感染症にならないように意識してケアに当たっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ふきんは毎日漂白・食洗器を活用して洗浄、殺菌、除菌している。食材は毎日買い物に出かけ、新鮮なものを確認して購入している、主に調理は栄養士、調理師の資格を持った職員にしてもらい他の職員は、衛生面の指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 自然環境に恵まれたホームであり、木のぬくもりを感じて入りやすいと評判がよい。工夫としては、毎年紫陽花を挿し木して増やし、花を媒介に地域の人が寄ってきてくれるようなホームにしたい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、台所、は1フロアになっており季節を配慮。自然な生活を感じる場面作りに気をつけている。洗濯場・浴室・トイレなどの不快な音は感じられない。日本の習慣を大切に、季節の飾りを工夫している。ユニット内の時計も増やすことができた。  (外部評価) ホーム内は木材を多用し、和紙の照明器具を用い、ゆったりした空間で温かく落ち着いた雰囲気がある。居間には季節の花や飾り、利用者の作品や写真、手作りの暦、見やすい時計等があり、居心地よく過ごせる工夫がある。その他の共用空間も清潔感があり、気になる匂いもない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 中庭のベンチ、居間にはところどころにソファを置いたりそれぞれの居場所があるように配慮をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よいその人らしい部屋になるよう、ご家族の協力を得ながら、好みものやなじみの物を置いて環境づくりをしている。もう少し、ご家族の協力の欲しい方もいらっしゃるが、否めない。  (外部評価) 居室にはお気に入りの人形や時計、使い慣れた小ダンス、テレビ、仏壇等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。居室の入口に手作り品を取り付けたり、居室ごとに名前をつけ、部屋間違いを防ぐ工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に気をつけており、寒暖計湿度計を見ながら、外気との温度差に注意しながら、冷暖房を使用・調整している。居室の温度も居間や食堂とバランスをとっている。トイレは入り口を開ければ換気扇が動くようになっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 心身の状況が変われば、家具を動かして行動がしやすいように、洗たく干しは身長にあわせて干せるようにしている。、全自動の洗濯機も使いやすく番号を書いている。台所のIH・水道の蛇口(レバー)が使えない方がおられ、IHは安全面から考えると、取替えが難しい。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ自立した生活ができるように、ミーティング、カンファレンス、ユニット会で話し合っている。	※	新しい機械の操作など、その都度丁寧に対応している。カセットプレイヤーの使用も職員の繰り返しの対応と工夫で使用することができた方もおられる。今後も、混乱や失敗を防げるよう、都度話し合っていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭があつて日当たりも良く、レクリエーション、日光浴、イベント、玄関横にはベンチ、などがあり多機能に使っている。園芸も楽しんでおられる。	※	現在も中庭や畑を楽しみにしておられるが、今後も、より楽しみの場となるように、支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	ゆったり和やかに過ごせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度の高い利用者が少なく、本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の関わり・ご利用者のよい相互関係・本人のプライベート時間の過ごし方で、穏やかな表情や笑顔が見られることが多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で、必ずしもいつも行きたい所へ行くことは出来ていないが、出来る限りの希望にそっている。体調をみながら、出来るだけ戸外にも出られるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになっている。主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできているが、より信頼関係を深めたい。管理者が交代したので、ご家族の理解・信頼関係が深まるよう、さらなる努力を重ねたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、時々地域の方の訪問がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	第10回の運営推進会議を重ねてきた。交流が少しずつ深くなり、理解が広がってきている。町内会の方が草刈のボランティアに来てくれたり、野菜を届けてくれたりしてる。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護の仕事が好きな職員ばかりで、皆生き活きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何か希望があったときはできるだけ対応しているので、表情もよく笑顔も多く、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。要望をいつもお聞きし、何でも言って頂けるようにしている。面会時も挨拶のみではなく、ゆっくりとした時間をとり、話しをすることができるようにしている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・理念を大切にし、利用者本位のサービスを提供できるように取り組んでいます。
- ・医療と連携を取り、安全で安心して生活できるようにしています。
- ・地域の中で、地域密着型サービス事業所として、地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。
- ・ご利用者・ご家族・地域・医療・職員 これらの絆を大切に、ご利用者の生活の質の向上に努めています。